

矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol. 1



発行日：平成 26 年 5 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 17 回海部会WGを開催しました！

5 月 19 日に第 17 回海部会 WG を開催しました。平成 26 年度の海部会の 4 つのテーマに対応する活動方針を確認し、活動計画について話し合いました。

日 時：H26 年 5 月 19 日(月) 13:00~15:00
活動場所：西尾市役所 会議棟 2 階 第 4 会議室
参加者：18 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1：今年度の活動計画について



【主な内容】

- テーマ1のごみ・流木調査については、6月に行われる西の浜エクスカージョンを次回海部会の活動に位置づけて活動を行う。
- テーマ1の海底ごみ調査、テーマ2の海底生き物調査については、水産試験場が予定している海底生き物調査の結果を海底ごみの状況と合わせて、12月頃に報告を予定する。また、可能であれば、底引きによる生き物調査の見学を実施する。
- テーマ2の鳥類からみる海の調査については、担当者と調整して秋頃に実施を予定する。
- テーマ3の子どもの干潟体験については、矢水協が主催するイベントの3日間（8月9、10、11日）のどこかで海部会を開催し、参加者の反応やイベント進行などについて学ぶ。
- テーマ3の漁業者との交流については、海部会単独で行うのではなく、懇談会全体で広く位置づけ、勉強会の中で各部会の実務者（海部会の場合は漁協組合の組合長）の話を聞く機会を設けることを提案する。（青木）
- テーマ4の干潟造成については、1年間通したテーマとし、ダムのお砂を持ってきてもらえるように話し合いを進めることから始める。



6 月 西の浜エクスカージョンに参加
8 月 子ども干潟体験に参加を予定
12 月 海底ごみや生き物調査の結果の報告会を予定
※鳥類からみる海の勉強会は、10 月、11 月で担当者と調整
※残りの部会で土砂の話を検討

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

2：市民企画会議からの報告及び提案について



【主な内容】

- 流域連携テーマの担当者として、ごみ・流木については井上氏、土砂については青木座長、鈴木副座長、木づかいについては、石川氏が決まった。
- 連携についての会議は、改めて設けるのではなく、全体で集まるときに時間を設けて実施してほしい、という要望があった。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真木

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

テーマ1：ごみ・流木問題

- ごみ・流木調査については、出来れば、山部会、川部会の方にも来ていただきたい。(青木)
- 合わせてこれまでの調査結果を報告しても良いし、愛知県の調査結果の報告や勉強会を実施しても良い。(青木)
- 6月15日に西の浜エクスカーションが行われる。海部会にも出席要請があったので、よろしく願いしたい。(松井)
- 西の浜エクスカーションの活動をテーマ1の活動にあてはめても良い。その後、海部会で取り組んできたごみの問題を報告するということが良いか。(青木)
 - (一同了承)

テーマ2：豊かな海の生物調査

- 海底生き物調査は、矢作川をきれいにする会でも実施している。漁師さんの船で引いて、魚もとれるし、ごみも一緒に入る。(石川)
 - 海底ごみ調査と一緒にできるということか。(青木)
- 今年、水産試験場が三河湾全域の溶存酸素と生き物の関係を調査する予定である。漁獲物の写真を撮るので、ごみの状況も分かると思う。海部会で実施するのであれば、三河港湾の船を出してもらい、見学者を分けると良い。漁船を出してもらうのにお金がかかるが、可能であれば実施すると良い。(鈴木)
 - 生き物調査の報告会については、12月になりそうである。(山田)
- 今年度調査結果を12月に報告できるかどうか分からないので、一度持ち帰ってもらった方が良い。(鈴木)
- 海底生き物調査結果と海底ごみの状況報告を12月に予定することで良いか。(青木)
 - (一同了承)
- 鳥類からみる海の調査は、秋頃が良いということで、10~11月で高橋さんと相談することで良いか。(青木)
 - (一同了承)



テーマ3：人と海との絆の再生

- 子どもの干潟体験については、いつも矢水協と関係者、上流の小学校で行っている。(平岩)
- 今年は8月9、10、11日で親子干潟体験を行う。上流の小学校2校と西尾市内の1校で行う予定である。1回にバス1台で40人の親子がくる。一緒に参加、というのは構わない。一緒に話を聞いてもらえばいいし、知識のある人はお手伝いをしてもらえば良い。(石川)
- では、3日間のどこかで海部会を開催し、どんなふうに行っているか学ばせてもらうということが良いか。(青木) ▶ (一同了承)
- 漁業関係者との交流については、漁業者の人の話を聞くと、三河湾がどのように変わってきたかということがすごく分かるので聞きたい。(大矢)
- 東三河の環境や漁業の歴史がどう変わってきたかは、東三河の組合長は皆さん話してくれると思う。勉強会のなかで機会を設けてはどうか。事業者の人の話を聞くというのは、懇談会全体でも行ってないと思う。人選が難しいが、例えば、川は新見さん、海は石川さん、山は蔵治さんなど、30分くらい、昔と今というテーマで話してはどうか。(鈴木)
 - 市民企画会議で流域連携の勉強会を行いたいという話があり、テーマを矢作川流域の様々な課題として、7月1日に辻本先生のお話を聞くことが決まっている。その勉強会の中で、お話いただいても良いと思う。(事務局)
- 漁業者との交流については、海部会単独で行うのではなく、広く位置づけて行うことにする。(青木) ▶ (一同了承)



テーマ4：干潟・ヨシ原再生

- 干潟造成については、ダムの砂を持ってきてもらえるように交渉を進めることから始めてはどうか。ダムの砂を一画に持ってきて、生き物調査や、砂の動きを観察することに、協力してもらえないかということでも交渉したい。(青木)
- ダムの砂を溪谷に運んで処理しているのは理屈に合わない。ダムの砂は本来、流下して海の生態系を育む一助であると理解しなければ、変わらない。経費や手間の問題ではない。土砂処分の現状をみたら、山の人も川の人も意見が変わると思う。(鈴木)
- 安倍川は、山から流す土砂量を決めて流す計画があるので、そういう考え方があるはずである。関係者に打診するような働きかけをすることを目標にするということではどうか。(青木)
 - ダム側だけでなく、海側の管理者、漁業権のある方、市町、港湾などにも打診の必要がある。(鈴木)
- このテーマは、1年を通して検討するテーマということで良いと思う。(青木)

ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



よかったと思うこと：行えること、できないことの議論がしっかりできた。それが実際の進め方に反映された。/山からの息づかいも感じられたことがよかった。/ダム土砂の利用について、WGからも話が持っていける形になるのは、良いことだと思います。矢水協としても、各機関にダム土砂利用と話していきたいです。

よくなかったと思うこと：新たに何かという具体的進展はなかった。/この会は学ぶことも多いが、よく分からない部分も多い。/時間管理について、大いに議論するため、もう少し余裕を持ってはどうか。/テーマと進め方、これまで進んだことを表示するとよい。進めたい重軽を決めるとよい。

今年度取り組んでいきたい活動など：硫化水素対策(宍道湖における取組み)に関する情報提供。/若い世代に、三河湾・伊勢湾にまだ残っている素晴らしさを伝え、海に関心を持ってもらうこと。/資産策を立てて話し合うこと。/互いに知り合う→理解する

今後のスケジュール(予定)



次回 第18回海部会WGを6月15日(日)に開催します

西の浜エクスカーションの活動に参加し、ごみ・流木の問題について意見交換を行います。

